

## 1.6m 北大名寄ピリカ望遠鏡搭載の北教大可視光低分散分光器による天体スペクトルカタログの作成 Spectral Atlas with Hokkyodai Spectrograph on 1.6 m Pirca Telescope at Nayoro Observatory.

関口 朋彦<sup>1\*</sup>, 河北秀世<sup>2</sup>, 渡辺誠<sup>3</sup>

SEKIGUCHI, Tomohiko<sup>1\*</sup>, KAWAKITA Hideyo<sup>2</sup>, WATANABE Makoto<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 北海道教育大学, <sup>2</sup> 京都産業大学, <sup>3</sup> 北海道大学

<sup>1</sup>Hokkaido University of Education, <sup>2</sup>Kyoto Sangyo University, <sup>3</sup>Hokkaido University

現在、北海道教育大学では教育学部理科教育専攻での卒業研究課題など大学教育での活用を視野にいたした天体分光データ一覧である「天体スペクトルカタログ」の作成を行っている。

なよろ市立天文台設置の北海道大学附属 1.6m ピリカ望遠鏡は、太陽系天体特に惑星観測を目的として建設され、昨年度より本格運用に入っている。北海道教育大学ではこの望遠鏡に新規開発の可視光分光器を搭載し、2011年度より観測を開始した。この分光器は観測波長：500-900nm で、反射型回折格子を用いた波長分散：R > 300 の低分散可視光用である。

今年度は各スペクトル型を代表する恒星や輝線星雲などの基本分光データに加え、太陽系天体では惑星：水星、金星、火星、木星、土星、海王星、彗星：C/2001 P1 Garrad、小惑星：15 Eunomia のデータを取得した。これらの分光データを視覚化し、大学教育を意識した分光カタログ・アーカイブの作成を目指している。

本講演では初期年度である 2011 年の観測結果のまとめを報告する。

キーワード: 観測, スペクトル, 分光器, 可視光

Keywords: observations, spectroscopy, spectrograph, visible wavelength

